

「日々の理科」(第2687号) 2021, 11, 21

「月食の写真集(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

11月19日の月食は、東京では薄曇りだったが、全国的には晴れた地域が多く、たくさんの方から素晴らしい写真が送られてきた。今回はその一部を紹介したいと思う。



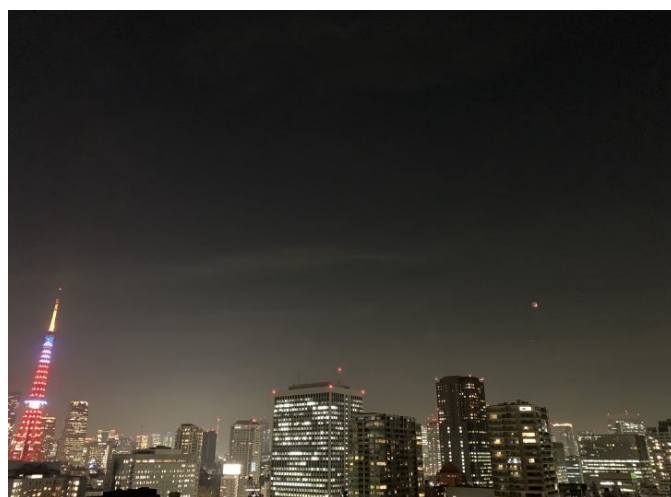
研究仲間から送られてきたもの。美しい写真だ。恐らくスマホで撮影したものである。スマホでもよく写ることを証明しているが、月の上に「緑色の旗」のようなものが写り込んでいる。実際に緑色の旗があったわけではなく、スマホレンズの特性によるものだ。下部の街灯がハレーションを起こした結果だろう。



2枚目も研究仲間の作品で、普通の民家の屋根の上に最大食に近い月がぽっかり浮かんでいて、とても好感が持てる良い写真だ。



これは都下の小学校の先生が撮った写真。この方とはよく天体写真を撮りに出かけるが、写真技術はなかなか素晴らしい。一番左下の月に「木の葉」が写っているが、「昇ってきたばかりの月」ということが表現されていて面白い。16:25はたぶん18:25の誤りだろう。



これは水彩画の仲間から送られてきた写真。さすがに水彩画をやっているだけあって、絵画的な構図が素晴らしい。左の東京タワーは、大谷選手のMVP授賞を祝って、特別な色になっている。肝心の月は右下のビル群の上にほんの小さく写っているが、これもまた良い。月は視直径がわずか0.5度しかなく、風景の中では非常に小さく見える、ということがよくわかる。